

脱サラで漫画制作会社

50代で脱サラし、漫画プロダクションを設立する夢をかきたてた人がいる。長年イベント関係の仕事に携わりながら、漫画やポップカルチャーを研究してきた大野光司さん(55)は、北九州発の漫画を発信したい。手塚治虫や赤塚不二夫など日本を代表する漫画家が青春時代を送った東京の「トキワ荘」をモデルに、漫画の共同制作や、世界に羽ばたくクリエイターの発掘を目指す。



コワーキングスペースへの入居者が描いたイラストを手にする
大野光司さん

「小倉のトキワ荘」開設

大野 光司さん(55)



COLTには映像撮影用スタジオもある

務。転機は2007年、同市で開かれた「日韓まんがフェスティバル」。運営に携わり、言葉が通じない日韓の若者が友人のように意思疎通しているのを見て「漫画は国籍や世代も飛び越えることができる。すこいコンテンツだ」と感激。同時に地元若手漫画家から「漫画では食べられない」という声も聞いた。漫画家に憧れた少年時代の夢がよみがえった。「いまさら漫画家にはなれないが、漫画に携わる仕事をして若手をサポートしたい」

50代で夢を実現「頑張れば道は開ける」

事務所はビル4階の約120平方メートル。漫画家が机を共有しながら独立した仕事を行う「コワーキングスペース」とミーティングスペース、映像撮影用スタジオを設けた。コワーキングスペースには地元の漫画家やイラストレーターなど10人の入居が決定。入居者はCOLTが受注した仕事をしながら独り立ちを目指す。「トキワ荘」にあなで「TOKIWA創プロジェクト」と命名。クリエイターの養成も大きな目的だ。

6月に退職した大野さんは退職金を開設資金につきこみ、退路を断った。家族には当初反対されたが、「夢だけではない。事業として成り立つ自信はある」と説得。最後は妻の協力を取り付けた。「50代の自分には若い人が持っていない経験と人脈がある。がむしゃらに頑張れば道は開けるはず」

(野村創)